

(体育科)

「できたよ！わかるよ！たのしいね！」

～できる喜びを味わい、夢中になって学び、仲間と関わる体育科学習～

大阪市立今川小学校 研究推進委員会

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、「学び、感動、愛」を学校教育目標に掲げ、生きる力をはぐくむ教育活動を行っている。これまでも、算数科や国語科において「伝え合う力」を育成し、自分の思いを言葉で的確に伝えることで、お互いを認め合える喜びを感じたり、自信をもって表現したりできるよう研究を重ねてきた。しかし、本校の児童の実態として、「全国学力・学習状況調査」によると、学習に対する意欲が高く、正答率も大阪市平均以上の項目もあるが、自己肯定感が高い児童が少ないことが課題であった。また、運動やスポーツをすることをあまり好まない児童がいること、「全国・体力運動能力、運動習慣等調査」の結果から持続力や瞬発力において平均より下回っている項目があるなど、体力面において課題があることも懸念される。昨年度に実施した、「運動や体育に関するアンケート」によると、運動やスポーツをすることが好き、体育学習が好きな児童は多く、どちらも90%以上が肯定的に答えているが、「運動が上手にできるほうだと思う。」の項目では70%を下回っている。以上のことから、昨年度より引き続き、体育科を中心とした研究を進め、「運動やスポーツ、体育学習が楽しい」「体を動かすことに自信がもてる」と感じる児童を育てたいと考えた。

## 2. 研究の概要

### (1) 研究の視点

- ①運動が苦手な児童が「できる」喜びを感じることができるよう、基本的な動きを身につけることができる。
- ②児童が体の動かし方について言葉などで表現し、主運動について「わかる」ことができる。
- ③児童が友だちに肯定的に「かかわる」ことができる。

### (2) 研究の方法

研究主題をもとに、各学年部会で授業研究に向けた教材研究などを行う。

#### ①授業研究

全体授業研究は各学年部会より1回、計6回行う。体育科について、各部会内で1単位時間分、計画、立案し公開する。指導案検討会は各部会内で行い、研究推進部会で検討する。その後、全体授業研究会に臨む。今年度は、ボール運動系領域（ゲーム・ボール運動）と器械運動領域の二つに絞って研究を進めていく。低学年、中学年、高学年それぞれで、どちらかの領域を選択し、ボール運動系領域を3回、器械運動領域を3回行う。

#### ②実態調査

アンケートによる実態調査「運動や体育に関するアンケート」を3月と11月に実施する。

#### ③研究協議会の工夫

研究協議会は、少人数のグループによるワークショップ形式にする。その際、付

箋により個人の意見を明らかにしつつ、グループでの意見交流や協議を深める。

④研究通信の発行

研究部からの連絡、次回の授業研究の時程、研究協議のまとめについてなどを発行する。

⑤現職教育

ア．教材・教具の活用等、指導技術の向上を目指し、研修会を行う。

イ．外部から講師を招聘し、実技研修会を行う。

⑥その他の取り組み

全校あげて「イマリンピック」を年間通じて実施し、遊具や用具を使って、子どもたちが楽しみながら身体能力を高めることができるようにする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 3つの視点「できる」「わかる」「かかわる」を意識した授業の構築に取り組んだ結果、「体育が楽しい。」「もっとしたい。」という声が、児童の中から聞かれるようになった。
- 「できる」取り組みでは、児童の実態に応じて、基本的な動きが身に付くような手立てを取り入れた。ボール運動系領域では、相手を交わす動きやボールを投げることが楽しみながらできるようになるようなミニゲームを取り入れたり、ボール操作が簡単にできるようはじめの規則を工夫したりした。器械運動領域では、「感覚づくりの運動」に重点をおき、学年ごと児童の実態に応じて、身につけさせたい動きを明確にした活動を行った。授業を進めるごとに、基本的な動きが身に付き「運動ができるようになった。」と感じる児童が増えた。
- 「わかる」取り組みでは、児童が良い動きを理解できるような掲示物や道具を作成した。また、学習のまとめの話し合いでワークシートを活用したり、指導者がポイントを絞ってアドバイスをしたりすることで、児童の良い動きの理解が深まった。
- 「かかわる」取り組みでは、児童がお互い褒めあったりアドバイスをし合ったりできるよう、見る場の工夫や話し合い活動を活発にできるようにした。ボール運動系では、たくさん得点しゲームに勝てるよう、攻め方や作戦についてワークシートやホワイトボードを活用して、話し合いが深まるようにした。器械運動系では、同じグループの友だちの動きを見て、アドバイスができるような場の工夫や用具の活用を行った。児童は運動が「わかる」ことと相まって、誉め言葉やアドバイスが増え、「かかわる」楽しさを味わうことができた。

(2) 今後の課題

- 児童が意欲的に取り組み、体を動かすことの楽しさを感じることができるよう教材の工夫や、指導者の言葉がけなどをさらに追及し、より充実した体育の授業づくりに努めていく。